

# ESLに参加して

環境共生学部 居住環境学科 2年 松尾夏花

私は大学に入学したときから4年間のうちに一回は留学をしようと決めていました。そこでこのESLの募集を見て参加することを決めました。ビリングスでの三週間は毎日が新しいことばかりで、とても多くのことを吸収できました。また、ホームステイをしたことで、アメリカに行かないと分からないような文化も多く知ることができました。

MTでは、平日の午前はMSUBで文法などの授業、午後は小学校や高校に行ったり、ネイティブアメリカンの文化や歴史について学習したりしました。また、他国からの留学生と少人数の班に別れて各国の文化について議論もしました。特にイスラム圏の国の文化は今まで触れたことがあまりなかったので、驚くことが沢山ありました。他にもダウンタウンに行っているいろいろなお店に行ったり、レストランで食事をしたりもしました。レストランでは日本の習慣にはない、チップの払い方を体験しました。最初は英語で会話する時に間違えることを恐れていましたが、辞書を使って調べたり、お互いに聞きあったりしてだんだんと英語で会話することが楽しくなりました。



またESLプログラムの中には2泊3日のイエローストーン国立公園での小旅行もありました。行く途中でミーヤキャットを見たり、壮大な小麦畑やトウモロコシ畑もみたりすることができました。イエローストーン国立公園は熊本県よりも大きく、沢山の野生動物も多く生息しています。イエローストーン国立公園では「animal jam」といわれるものがあります。それは野生動物がいるところで車の渋滞が起こる現象のことを言います。私たちも何度も「animal jam」に遭遇しました。中でも一番驚いたのはバイソンの群れに遭遇したときでした。また、この公園には大きな滝やガイザーも沢山あり見るたびに感動するほどでした。

平日の放課後や土日は、ホストファミリーと過ごしました。私を受け入れてくださったGiebinkさん一家はとても親切で暖かく迎え入れてくれました。

私の発音が悪くて英語が伝わらないことも何度もありましたが、それが話の話題になったり、時には笑いに変わったりすることもあり、とても充実した時間を過ごせました。その中で私はより多くのことを知りたい、より英語がうまくなりたいという思いがあったので就寝以外のときはリビングで過ごし、ホストファミリーと沢山会話をするようにしていました。また、ホストファミリーのお宅には私以外に**3**人の野球選手もステイしていたので、ビリングスで試合がある日は毎日、球場に応援に行きました。球場では地域の人々と交流でき、沢山の人が私に話しかけてくれました。飲み物やスナックを買うときに困っていたら後ろの人が助けてくれることもありました。途中、沢山話したいことがあるのに、単語がわからなかったり、うまく伝わらなかったりと悔しきやもどかしきで少し悩みましたが、それをホストマザーに相談すると、「大丈夫、あなたの英語はどんどんよくなっているよ」と言ってくれました。また、ホストファミリーやブラザー、野球選手の三人も私が話していることを理解しようと、話を一生懸命聞き、時には質問をしてくれました。ホストブラザーはアメリカの大学のシステムを教えてくれたり、面白い動画を **you tube** で見せてくれたり、時にはふざけたり、ジョークを言ったりして私を笑わせてくれました。帰国するときには、逆ホームシックになり、もっとモンタナにいたくなり、ホストファミリーとのお別れのときは涙が止まりませんでした。アメリカの文化や英語の発音を沢山教えてくれたり、沢山の時間を一緒にすごしてくれたたりした、ホストファミリーには感謝の気持ちでいっぱいです。

モンタナでの**3**週間は本当にあっという間でした。最初はほとんど英語が聞き取れませんでした。が、相手に聞き返し、また質問することで行く前より英語が聞き取れるようになったし、英語を話すことへの抵抗もなくなったように感じます。そして、英語を話せることでいろいろな国の人と会話ができることを感じ、日本に帰ってからも英語を学び続けたいと思いました。そして、日本で



外国の方が困っているのを見かけたら、自分が助けてもらったように声をかけようと思います。

この**3**週間で学んだ多くのことをこれからの学校生活、就職活動など、人生に生かしていきます。そして、このプログラムを運営して下さった方々、参加させてくれ、応援してくれた家族、モンタナに行く前からメールをしてくれ、温かく受け入れ、帰

国してからも連絡をしてくれるホストファミリーには感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。